



【特集】ウィキペディアの正体とは？

ウィキペディアと図書館

文学部 教授 時実 象一

誰でも知っているウィキペディア、 誰も知らないウィキペディア

ウィキペディアの世話になっていない人はほとんどいないだろう。PCでもスマホでも、何かことばや事件を調べるときはウィキペディアに限る。先生方でも講義の準備の中で、ウィキペディアを参考にしている人は多いのではないかと。

このように誰でも知っているウィキペディアであるが、それがどんなものであるか知っている人は意外と少ないように思う。「便利だから使っているけど、誰が書いているのか不思議だった」と学生もいっている。ではウィキペディアとは何か。

- (1)ウィキペディアはボランティアが作っている百科事典である。
- (2)ウィキペディアの記事は誰でも書いて、誰でも編集できる。何の資格もいらない。パスワードもいらない。
- (3)ウィキペディアの記事の品質は、お互いのチェックだけで保たれている。
- (4)ウィキペディアは寄付だけで運営されている。

ウィキペディアでは、他の人が書いた記事に自由に加筆したり、書き直すこともできる。このような加筆と修正を経て、だんだん良い記事になっていく仕組みである。これまでの普通の百科事典の場合には、ある項目を、その分野の専門家がひとりだけで書くのが当たり前だったが、ウィキペディアはそれとは正反対の仕組みとすることができる。

このように、ウィキペディアはネット社会が生んだ、ある意味では理想的な協同作業の集合体である。サーバを運用している人達はいるが、それ以外には編集部の組織もなく、何の権威にもたよっていない。

ウィキペディアの創始者は米国のジミー（ジンボ）・ウェールズ氏とされている。彼はインターネット上で無料で使える百科事典を作りたくて、ウィキというソフトウェアを使って2001年にウィキペディアを開始した。ウィキはウェブで使う「協同作業ソフトウェア」のひとつで、みんなで自由に文章を書き込んだり、修正できる仕組みを持っている。

始めてから2週間くらいは、とんでもない書き込みがあったり、荒らしが起きたりするのではないかと心配で夜もよく眠れなかったとウェールズは述べている。しかし実際にはそんなことは全く起きず、記事数はたちまち1000本を越え、どんどん増えていったのである。2013年9月現在ウィキペディアの記事数は、英語版で430万件、日本語版で88万件に及ぶ。



2 ウィキペディアの仕組み

ウィキペディアの記事は、誰でも書くことができるが、若干の決まりもある。それが次の三大執筆方針である。

- 中立的な観点
- 検証可能性
- 独自研究は載せない

「中立的な観点」とは、議論があるテーマ（特に政治的なテーマ）については、特定の観点到偏らずあらゆる観点からの描写を平等に扱うということである。「検証可能性」とは、学術論文では当然のことであるが、うわさ話や人づてに聞いたことをそのまま書くのではなく、文献やウェブサイトなどの出典がある事項を書くということである。最後の「独自研究は載せない」であるが、執筆者の中には、ウィキペディアを学術発表の場と勘違いして、他で発表されていない自分の研究結果を載せる人がいる。そのような勘違いを防ぐための決まりである。

たとえば「つり革」(電車の)という記事(2013年9月現在)は、出典がなく、自分の調査結果を記載しているだけで、独自研究の典型である。

「南京虐殺」や「靖国神社」など、ひとびとの意見の分かれる政治的なトピックでは、ある人が書いたものを消したり修正したりすると、消されたほうがまた書きなおす、という「編集合戦」が起きることがある。意見の違いは執筆者間の話し合いで解決することが基本であるが、編集合戦が始まると自主的解決はなかなか望めない。そのような場合、その記事は「管理者」によって、書き込みができないように「保護」される。日本にはそうした権限をもつボランティアの管理者が60人ほどいるとのことである。

3 ウィキペディアの記事の信頼性

ウィキペディアの記事のうち、多くの人が目にする記事は、詳細で、また信頼性も高い。しかし、タレントに関する記事や、いわゆる「オタク」系の記事は、うわさ話や聞きかじりが多く、信頼性に乏しい。

また少数の人しか関心のない記事(たとえば科学や歴史の、個別のトピック)は、一見もっともらしいが信頼性に疑問がある。これらの記事はしばしば一面的で、不正確だったり、独自研究だったりするが、誰も他の人がチェックしないので、そのままになっている。

ところが新聞記者などが、ある事件の背景を調べるとき、たいていウィキペディアを参考にするので、こうした不正確な記事の存在は問題である。土木学会応用力学委員会では、「Wikipediaプロジェクト」を結成して、土木に関する記事を適切なものにするための取り組みをおこなっている。

4 ウィキペディア実習

私は2007年から毎年、入門演習の実習で学生(2年生)にウィキペディアの編集をさせている。テーマとしては、地域の施設や行事、出身学校などを中心とし、タレントや政治問題などトラブルになりそうなものは避けている。これまでのテーマはたとえば次のようなものである。

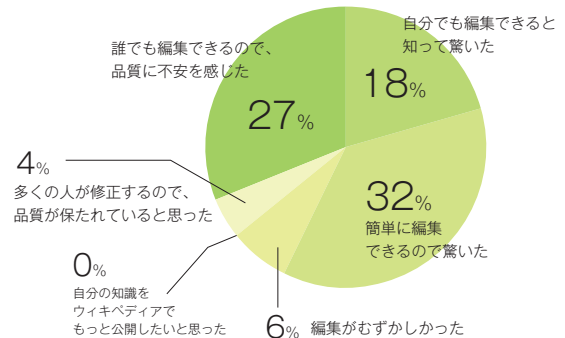
カルミア(豊橋駅ビル)	チョコレートサイダー
愛知県立新城東高等学校	豊橋点字図書館
名古屋市立当知小学校	岡崎市立新香山中学校
東刈谷小学校	あざりせんべい(田原)
愛知県立美和高等学校	高師緑地
ユナイテッド・シネマ豊橋18	知立まつり
豊橋祇園祭	おいでん祭(中津川市)

愛知大学(刊行物)	霞山文庫
多治見市立平和中学校	音楽図書館
愛知大学(サークル)	愛知大学記念館
炭火焼レストランさわやか杯	多治見陶器祭り
岡崎市立矢作南小学校	名護夏祭り
梅田川(愛知県)	



この風景は2009年11月25日のNHK「ニュースウォッチ9」で取材・放映された。

学生のウィキペディアの信頼性についての意見は次のとおりである。どちらかという、品質に不安を感じるという意見が多かった。



5 ウィキペディアの記事をどう取り扱うべきか

学生は、ウィキペディアの情報をどう取り扱っていいかわからないでいる。ウィキペディアに書いてあることをまるごと「コピペ」するのは論外であるが、出典としてウィキペディアの記事を引用してくる学生もいる。

私の講義では、「ウィキペディアは利用しなさい。でもレポートや卒論で引用・参照してはいけません。ウィキペディアに書かれている参照文献や参照サイトを引用・参照しなさい」と説明している。その理由はウィキペディアの記事は匿名だからである。匿名の記事は、その内容が正しいかどうか問い合わせることができない。すなわち「検証可能」でないからである。このことはウィキペディアの創始者であるジミー・ウェールズ自身がそう説明している。

この考え方は図書館でも同じであると思う。「ウィキペディアにこう書いてありますが、これを鵜呑みにするのではなく、そこに参照されているサイトを見て確認してください」というべきであろう。ことばの意味を調べるだけなら、私は図書館のデータベースJapanKnowledgeや、冊子の事典を使うように指導している。

多くの人を利用するウィキペディアである。大学研究者の方々も、自分の分野のトピックについて一度ウィキペディアを見ていただき、必要なら修正・加筆していただければと思う。



ウィキペディアのジミー・ウェールズ氏と筆者。